

自己有用感に支えられて自ら計画する社会科学習

中学年単元「広島を案内して特色を伝えよう」の実践をもとに

松田 芳明

1 はじめに

子どもたちは、問いを追究したいという好奇心と問題を解決しなければならないという必要感などに支えられながら、さまざまな学習をしている。ここでは、人に喜んでもらいたい、人の役に立っているんだという自己有用感が、自分たちで学習活動を計画したり、主体的に社会生活の場にかかわったりする活動を促進できるのかを考察してみたい。

この場での学習は、社会的な事象を部分的に取り上げて追究する活動ではなく、今までに学習(経験)した知識や技能などを効果的に活用しながら、生活と結び付いた実感的で実践的な活動を通して、自分の社会生活を豊かにすることのできる力を獲得できる学習活動を構想している。

本校複式学級では、4年前より自然環境の豊かな帝積小学校(広島県比婆郡東城町)と交流宿泊学習を行っている。交流当初は、それぞれの学校での人的な交流に主眼がおかれていた。昨年度は、自然環境の豊かな帝積小学校のよさが生かされ、自然散策、梅とり、クワの実食べ、笹もち作り、土鈴作りなどさまざまな自然体験を満喫でき、理科学習的な側面が充実できた。

本年度は、帝積小学校の子どもたちが、都市部にある本校を訪れることに決まった。社会環境の豊かな本校の児童にとって、どんな意義があるのだろうか。子どもたちが、都市部の社会環境を生かした学習活動を自主的に計画し、他校の子どもたちへの紹介や案内を通して、両校の違いのよさに気づくことができるとともに、相互の交流を深めることができると考えた。

本校の児童が、帝積小学校の児童に広島についての紹介と案内をするために、どのように取り組み、どのような校外交流学習を行ったのかについて述べ、社会科学習の原動力としての自己有用感の有効性について考察する。この実践は、先ほど報告した「子どもたちが計画する交流宿泊学習」(同学年相互のよさを生かした学習活動への取り組みと実際)の中学年編の詳細である。

2 実践事例 校外交流学習「広島を案内して、特色を伝えよう。」

(1) 単元の設定にあたって

本単元は、第3学年と第4学年の共通の単元であり、社会的な事象を主な学習対象とし、他校の子どもたちの喜ぶ顔を意識しながら、学習者自らが学習内容を統合していく総合学習的な単元である。両校の生活環境の違いに目を向けながら、自分たちの住んでいる広島の特徴を探したり、広島でしか体験できないことをいろいろと考えたり、校外交流学習のコースを決定したりする活動を大切にしたい。日程やコースの決定にあたっては、子どもたちによる資料収集やインターネットの活用を通しての話し合い活動を重視したい。子どもたちの思いや願いが膨らみ、試行錯誤しながら一番よいと考えた学習活動を決定し、自己評価できるように支援していきたい。

(2) 校外交流学習の取り組み

① 広島の特徴(広島でしか体験できない社会環境)についての話し合い

子どもたちは、昨年度訪れた帝積小学校の光景と今までの都市部での社会生活(体験したこと)を思い出しながら、校外交流活動について考えていった。都市部での学習活動としては、3年生・4年生ともに社会科で学習した内容が中心にだされた。両校の違いに目を向けた学習活動を計画しようとしていた。子どもたちの考えた学習活動は以下の通りである。

ア 社会体験的活動

- ・アストラムラインに乗る
- ・市内電車に乗る
- ・船に乗る
- ・ハンバーガーを食べる
- ・本通りで買い物をする
- ・コンビニで買い物をする
- ・レストランで食事をする

イ 広島市近郊での自然体験

- ・みかんがりに行く
- ・かき打ち場に行く

ウ 施設の見学

- ・宇品港
- ・原ばくドーム
- ・美術館
- ・郷土資料館
- ・交通科学館
- ・デパート

② 帝釈小学校（複式）中学年の友達への手紙

どの手紙にも、「楽しかった昨年度の交流の思い出」「都市部に位置する広島よさを紹介したいという願い」が書かれてあった。自分たちの力で交流宿泊学習の活動内容を計画して、帝釈小学校の友達に喜んでもらいたいという思いが募ってきている様子が感じられた。

— 東雲小学校児童の交流前の手紙 —

みなさん元気ですか。みなさんが10月31日にとまりにくると聞いたのでうれしいです。それに、去年に行った時には、うめをとったり、どれいをつくったり、おいしいカレーをいっしょに食べたりしましたね。もうこの手紙を書いているといろんな思い出が頭にうかんできます。今年は、どんなことをするのかは、いろんな所について広島を案内します。わたしたちは、すごく楽しみでわくわくしています。みなさんも、楽しみにしておいてください。とまるときもなかよくねましょね。去年も、いっしょにとまったときには、すごくわくわくしていました。広島はあまり、森林はありませんが、よるはすごくすずしいです。

ぜひ、楽しみにしててくださいね。

(9月)

③ 校外学習コースの決定

自分たちで目的地（14時までに帰校できる範囲内の目的地）を選ぶこと、自分たちの力で公共交通機関を使いながら施設などを見学すること、交通費込みで、1,500円の予算内で、昼食や買い物を済ませることの3点を約束事にして、帝釈小学校の子どもたちの思いを電話等で確認する場を設けながら、子どもたちとともに校外学習コースを決定することにした。

子どもたちは、施設のパンフレットや公共交通機関の路線図や時刻表を集めてきた。また、インターネットで、広島市のホームページからリンクして、交通科学館のホームページを開いて、施設の概要を見たり、クイズをしたりして遊んでいる子どもたちもいた。話し合いの結果、コンビニ（外食産業）で昼食を買って、アストラムラインに乗って交通科学館で未来都市の様子について調べて、本通りで買い物をして、帰校するコースに決定した。

④ インターネットを活用した施設調べ

交通科学館のホームページを開いて、思い思いにインターネットを操作した。未来都市の模型を見てびっくりする子ども、広島市内の路面電車の写真を印刷したいと言う子ども、館内にあるレストランで食事をしたいと言う子ども、交通科学館のある場所や行き方を調べている子ども、利用方法や利用時間を調べている子などさまざまな子どもたちの活動が見受けられた。

また、インターネットの使い方を帝釈小学校の友達に教えてあげたいという声があがった。

⑤ 校外学習コースと日程の修正

子どもたちは、バス路線図やアストラムラインの時刻表、交通科学館のパンフレット、本通り商店街の地図などの資料を集めてくるとともに、本通り周辺の飲食店を調べてきた。これらの資料と広島市の地図やインターネットからの情報を活用して、主な活動内容と時刻及びその場で考えられる学習内容を話し合った。

東雲小学校と本通り間をどのバス路線を使ったらよいかを話し合った。行きと帰りでコースを変えた方が、できるだけいろいろな市内の様子を伝えることができるからよいということになった。

バス等の公共交通機関を使って自力で登校している子どもたちから、行きは早朝交通渋滞の少ない広島駅経由のバス路線を使う方がよいという意見がだされた。

バスとアストラムライン（新交通システム）とのアクセスについて質問がだされ、昼食を買い場所に近い方がよいということになった。

しかし、本通り商店街付近では、昼食を購入する場所があまりなく、午前9時頃に開店している店がコンビニぐらいしかなく、飲食店で食事をすると活動時間が少なくなるので、インターネットで発見した交通科学館内にあるレストランで食事することにした。

そこで、行きは、早朝渋滞の少ない広島駅経由県庁行きのバスに乗って、県庁でアストラムラインに乗りかえて、交通科学館に行くことに決まった。帰りは、本通りで降りて、地下街やデパートを通過して、本通りの100円（300円）ショップで買い物をし、国道2号線を通るバスで帰校することにした。100円ショップと300円ショップのどちらで買い物をするかは、交通費との関係が深いので、その費用について自分たちで調べてくることにした。往復で600円かかることがわかり、昼食を含めて、900円しか自由にならないので、100円ショップで買い物をすることにした。また、昼食のメニューは、予算内で自由に選んでもよいこととして、残りの予算で、本通り商店街にある100円ショップで買い物をすることにした。

次に、子どもたちは、地図・写真・資料集などを活用して、その場でどんな学習（紹介や説明）ができるのかといろいろと考えていた。例えば、「2号線には車がたくさん通っている。」「バス停にコンピューターがあるよ。」「アーケードがあるよ。」「消火栓が見えるよ。」「一方通行や速度制限を表すひょうしきがあるよ。」など中学年社会科の教育内容を多分に含んだ記述が多く見受けられた。

⑥ 帝釈小学校の友達への校外学習活動についての説明

東雲小学校児童（3年10名、4年8名）と帝釈小学校児童（3年5名、4年4名）合同の班を3つ編成して、みんなから推薦されたリーダーを中心に、校外学習の活動内容について確認しあった。

子ども達が作成した校外交流学習の日程表、東雲小学校と交通科学館がのっている地図、バス路線図等の資料を使って、子ども達だけの力で説明していた。本校の3年生も、事前に4年生から地図の見方を教わったり、校外学習のコースを地図上で確認したりしていたので、自信をもって帝釈小学校の友達に説明していた。



日程 交流校外学習の日程（中学年用）

時刻	主な活動	どんな学習が考えられるかな。
8:30	学校出発	国道2号線(車がたくさん通っている) 仁保公民館・消火栓
8:50	4番線東本浦乗車 バス代(110円)	商店街(スーパーマーケット・道の屋 フルーツヨーグルト)
9:20	県庁下車・お好み焼き屋	一方通行・速度せいげんかんばし デパート・てんまや・文芸館・お好み
9:30	アストラムライン乗車 乗車代(190円)	じゅうたく・ホームテレビ アストラムラインの乗り方・おり方
9:50	長楽寺駅到着	
10:00	交通科学館入館 (昼食メニュー注文)	き、30の買い方・見学のたいど 食べたい物を自分で食券を買い封 未来の都市の様子が見れます いろいろな料理の模型があります
11:20	館内レストランで食事	ピクルアイズができるよ おもしろい自動販売機があるよ はんごとは食べながら、話をしよう
11:50	交通科学館出発	
12:00	長楽寺駅出発(乗車代190円)	アストラムラインでの乗り方
12:20	県庁駅下車	道路ショップでのたいど
12:25	基幹クレド・本通り	100円Shopの物の買い方 いろいろなせんもん店 アーケード いろいろな人が買い物をしているよ
	残りのお金で買う ハンバーガー(140円) ドーナツ	
13:30	7番線本通り乗車 バス代(110円)	バス停にコンピューターがあるよ いろいろなバスがとどつてるよ (赤バス・青バスなど) 2号線をとどつてるよ
13:50	東雲下車	
14:00	学校帰着	

合計 1500円以内

また、インターネットを使って一緒に交通科学館の施設の概要を調べながら、「ここで食事をするよ。」「未来の都市が見えるんよ。」「いろいろな乗り物の模型があるよ。」などいろいろと話していた。中には、横浜科学館にリンクして、惑星の画像を開くなど、他のホームページにリンクしていろいろな画像を紹介していた。帝積小学校の子どもたちは、わくわくしながらインターネットを操作しているようだった。

(3) 校外交流学習の実際

① アストラムラインに乗る体験

子どもたち一人一人が、自動券売機で切符を買って、アストラムラインに乗車した。交通科学館のある長楽寺駅までの運賃を確認したり、ボタンの押す場所をじっくりと確認したりしていた。本校の子どもたちの中にも初めて乗る子どももいた。乗った経験のある子が、手本を見せたり、「190円入れるんよ。」「ここを押すよ。」と優しくアドバイスをしていた。また、改札口で切符をさし入れたとき不安そうにしている子を見かけると、「だいじょうぶだよ。すぐ出てくるよ。」と言葉かけをしていた。

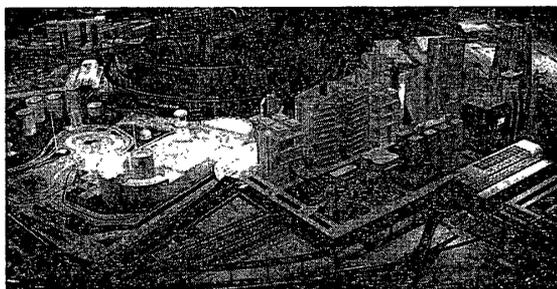
初めての乗り物に乗るときには戸惑いがあるけれども、そばにやり方のよく知っている人がいると心強いものである。「ありがとう。」と言ってもらった本校の子どもたちはすごくうれしそうであった。



アストラムラインに乗車すると、「時間通りにくるからいいね。」「あまりゆれんね。」「車椅子の人も乗れるようになってるんだね。」という気づきや「アストラムラインのドアと駅のドアが同じように開くけど、どうなっているんかね。」「なぜ、つくったんかね。」など素朴な問いがだされていた。これらの問いは第4学年単元「郷土を開く」での学習活動へと発展していった。また、アストラムラインから外の光景を見ながら、「あのビル、ぼくが住んでいるんで。」「家が多いね。」「かん板が多いね。」などビルや住宅の多い広島と田畑の多い帝積との違いについての気づきがだされていた。

② 交通科学館での未来体験

インターネットで予め館内の様子をつかんでいる子どもたちは、グループ毎に自分たちの行きたい所に行っているいろいろな活動をしていた。未来都市の模型のある所に行き、インターネットでの写真と実物との違いに驚いていた。自分たちの感じたことを素直に話していた。「このレバーを押すと動くんよ。」「サッカー場の下が駐車場になるよ。」「いつごろ、こうなるんかね。」「すごくべんりよ。」「田や畑はどうなるんかね。」「きゅうくつだね。もっと広いほうがいいよ。」などのつぶやきがあったそうだ。生まれ育った環境によって見方・考え方が異なると思った。きっと、子どもたちは、何気ない会話からたくさんのかんことを感じとっていることだろう。



立体映像を見ながら、「本当にのっとるみたいじゃ。」「こわかった。」「かっこええ。」などの声も上がっていた。子どもたちに人気があったのが、動く映像に向かって自転車をこいだり、アストラ

ムラインを操縦したりする乗り物だった。エレベーターでの昇降も喜んでいた。

③ 食券を買ってからの昼食

昼食と100円ショップでの買い物代金を合わせて、900円以内で自由に使ってもよいと約束している。食べたい料理を各自で決めて、食券を買った。100円ショップでたくさん買い物をしようと思って、金額の一番安いおむすびを注文した子どももいた。スパゲティー・うどん・ラーメン・かつどんなど好きなものを食べていた。中には、二人でメロンソーダを注文して飲んでいた子もいた。子どもたちのお金の使い道を考えた行動には、感心させられてしまった。



④ 100円ショップでの買い物

帝釈小学校の子どもたちは、本通り商店街を通行する人の多さにびっくりしていた。「〇〇店があるね。」「この店の〇〇は、すごくおいしんですよ。」「これ何かね。」「このアーケード開くんよ。」「300円ショップがあるよ。」などお互いに話をしながら商店街の中を歩いて行った。100円ショップについたとたん、どの子どもたちの目もらんらんと輝いていた。「本当にどれも100円なん。」「これ買お。」「お母さんとお父さんのおみやげにしよう」とつぶやきながら、フリースビー・ペッタンハンド・水でっぼう・ねんど風船・いなかうどん・バッチ・ハンガーなどいろいろな物を買っていた。



「おみやげを買おっと。」という言葉聞いた子どもたちは、「帝釈小学校の子どもたちは、優しいんですよ。」と後で話してくれた。

⑤ 工夫したお金の使い方

昼食と100円ショップでの買い物の合計が900円以内であった。子どもたちの工夫したお金の使い方を紹介する。

ア Aさんの場合（合計604円の支出）

- ・おにぎり（120円）・クリームソーダ（半分ずつで175円）・ハンカチ（103円）
- ・バッチ（103円）・消しゴム（103円）

イ Bさんの場合（合計682円の支出）

- ・おにぎり（120円）・天ぷらうどん（150円）・メモ帳（206円）・ビー玉（103円）
- ・シャーペン（103円）

子どもたちの中には、交通費も昼食費（食券での購入）消費税が必要でなかったけれども、100円ショップでは必要であったので、900円すべてを使おうと考えていた子どもは、帰りのバス代が不足してしまう結果になった。この失敗体験も価値のある体験になったのではないだろうか。

⑥ 交通渋滞の体験

交通渋滞になりにくいバス路線を選んだはずであったが、運悪く渋滞に巻き込まれてしまった。普段ならば15分ぐらいでいけるところが、1時間程度かかってしまった。バスの中は、ぎゅうぎゅう状態で、ほとんど立ちっぱなしだった。乗客の額から汗がにじみ出ている。帝釈ではストーブがだされている時期に、バスの中ではクーラーがつけられた。東雲の子どもにとってはよく見かける光景である。帝釈小学校の子どもたちにとっては、強烈な印象だったようだ。3キロの道のりを歩いて登校している子どもも、渋滞でくたくたになるよりも、3キロ歩いた方がいいと言ったそう。異なる生活環境の中に身をゆだねることによって、自分の生活を振り返り、今の自分の生活のよさも発見できるのかもしれない。

3 自己有用感の自覚

子どもたちは、自分の興味や関心を全面に出すのではなく、絶えず交流校の子どもたちのことを意識しながら、学習活動を計画した。全員の子どもたちが、校外交流学習の場で、自己有用感を実感していたとともに、事後の手紙交換の場で自己有用感を再認識していた。子どもたちの手紙の内容を紹介する。

— 東雲小学校の児童の手紙 —

東雲小学校での交流会は楽しかったですか。ぼくは、みんなと遊べてとても楽しかったです。特に、自分たちだけで切符を買い、アストラムラインやバスに乗って、交通科学館に行き、レストランで食事をしたり、未来都市を見たりして、さぞ、びっくりしたことと思います。

ぼくらの地域は、車やバスが多く通り、じゅうたいが多く見られるので、帝釈の自然の方がぼくは好きです。帝釈の中学年の人たちにとって、いい思い出ができたらいいなあとと思っています。

— 帝釈小学校の児童からの手紙 —

- 地図の色分けをするのを、いっしょにしてくれたのがうれしかったです。インターネットの使い方も教えてくれたし、「どれ見たい。」と言ってくれました。社会見学の日、ならび方を教えてくれたし、「はい、〇〇さんはここ。」と言ってくれましたね。とても親切にしてくれたのがうれしかったです。また、バスにのるさい後のときも、「バイバイー」と言ってくれましたね。帝釈に来る時が楽しみです。ありがとうございました。
- 〇〇君は2はんのリーダーとして、みんなをまとめたり、2はんの先頭に立って教えてくれたね。ぼくは、そういうことを見習いたいです。2日目のときも、分かるようにせつ明してくれてうれしかったよ。今度はぼくたちがみんなにたいしゃくのことを教えてあげるから楽しみに待っていてね。町では体けんできないことを教えてあげるね。

4 おわりに

人と人との心の交流は、学習活動のねらいと内容が明確になる。交流する場はもちろん、交流校の友達に紹介や案内をするために、試行錯誤しながら学習活動を計画する過程こそ大切であろう。今までの学習成果や各自の既習体験を総動員しながら、「自分たちの住んでいる広島を紹介したい。この地域の特性である社会的な事象を体験してほしい。」という子どもたちの願いに支えられている。自ら学習活動を計画して実行する過程で、学習内容が自分を中心に統合されてくるのだろう。

両校の学習環境の違いに目をむける活動、資料を収集し活用する活動（インターネットの活用など）、社会的な体験をする活動、予算内での効果的な活動、思いや感動を手紙で伝える活動、学習活動の内容を説明する活動など、相互に関連し合いながら、自ずと総合化されてくる。紹介や案内をする活動は、教科・領域の教育内容やねらいを横断的に融合させながら、社会生活を主体的に生きていく力を育むことができると言えないだろうか。また、校外交流学習での学習活動の総合化は、各種方面への興味関心の喚起、各種能力の総合的な活用、学習と生活の一体化、異文化の相互理解、自分自身の認知という側面においても、有効な学習活動であったと考える。

しかし、自ら発見した問いを探究し論証する活動、問題（社会的な問題）を解決するための意思を決定する活動は、過去を振り返り未来を展望しながら現在の社会生活を主体的に生きていくうえで不可欠な要素である。今後、様々な能力が開発されるように、教育内容についての内容学的な側面より、多様な学習活動の場や活動内容の研究を推進していく必要があるのではないだろうか。